

留学生の声

塾内在籍高校・学年(派遣時)	湘南藤沢高等部 5年
留学先高校名	Winchester College
留学期間	2018年 9月から 2019年 7月まで

どのようなことを期待して渡航しましたか？

今まで父の仕事の関係で日米両国の小・中学校を経験してきたため、すでに様々な世界を知っていると自分の中で勝手に満足し、新たな世界の可能性にあまり目を向けられていませんでした。そんな中で、初めての英国かつ英国最古のパブリックスクールに留学するという経験は、自分の今までの価値観や世界観を一新する大変貴重な機会になると思いました。学問のみならず音楽やスポーツなどすべての分野に秀でた生徒が世界各国から集まり寝食を共にする、という生活を想像するだけでも心が躍りました。

留学を振り返って

もちろん留学していて期待以上に楽しめたこと、期待していたよりも上手くいかなかったこと、加えて、期待もしていなかったことが沢山あり、総合的にとても充実していた一年でした。

期待もしていなかったことは、自分の「日本人」のアイデンティティを人生で一番自覚させられたことでした。アメリカに計 8 年間住んでいたため、自分は日本人というよりアメリカ人だ、という自覚を持って過ごしていました。今回の留学では、日本でもアメリカでもないイギリスという国において、周りから「日本人」として認識される中で、今まで外(海外)に向いていた自分の視点が、生まれて初めて内(日本)に向き、自国文化(日本文化)を考えるようになりました。

「日本人」としてのアイデンティティを自覚するようになった大きな理由は、ウィンチェスター特有の Div の授業でした。Div のクラスでは、他の教科のように 1 つの決まったトピックに関して議論するのではなく、自分の考えを発信していく授業が多かったです。具体的には以下がありました。

<Desert Island Disks>

無人島に持って行きたいほど好きな音楽を 7 つ、本を 1 つ、贅沢品を 1 つ紹介する、というプロジェクトです。自分の好きなアメリカの洋楽やクラシックのチャイコフスキーの他に、J-pop の One Ok Rock や津軽三味線で有名な吉田兄弟の曲、そして日本が誇る久石譲の曲を流し、日本の音楽を発表しました。

<Film>

Div のクラスでは、よく海外の映画を見て、海外の生活や文化を理解するということをしていましたが、僕が日本人であるという理由で、先生が遠藤周作の「沈黙」をクラスの生徒に見せて下さいました。僕は、当時なぜキリシタンの存在が否定されていたのかを歴史的背景を踏まえて説明させて頂き、クラスの皆に日本に関心を持って頂けたばかりでなく、自分自身も日本の歴史を再確認するとても良い機会となりました。

<Lesson>

生徒一人ひとりが自由に授業をする機会が年度の最後に設けられました。僕は、今やイギリスを含め海外でも大人気の「お寿司」についての授業をしました。江戸時代のお寿司の役目、様々なお寿司の種類、食べ方のマナー、すし職人が通る修行などについて説明し、最後には、ロンドンで本物の「お寿司」を食べられるお店も紹介しました。流行りのように軽く見られていた「お寿司」の奥深さ、日本の食文化の真実を、クラスの皆の興味を引きつつ伝えられたことは、とても嬉しいことでした。

他にも、令和時代の天皇即位のニュースがあれば日本の天皇制について議論することもあり、僕はクラスで唯一の日本人だったため、日本に関する全てのことに答えなければというプレッシャーもありましたが、海外に出た時に、周りから自分が想像以上に「日本人」として期待されることや、知っておくべき日本についての知識がこんなにも沢山あるのだということに、改めて気づかされました。「日本人」としてのアイデンティティを自覚させられたことは良い意味で期待していなかったとであり、Div のクラスがなければ、世界にこれから出て行こうとする自分に必要な意識に気づけなかったため、この留学中にイギリス文化やヨーロッパ文化だけでなく日本文化にも興味を持てたことは、僕にとっては本当に大きな意味のあることでした。

課外活動は何をしていましたか？

<Tennis>

ウィンチェスターでは本来テニスは夏(最終学期)のスポーツですが、寮の友達にコーチを紹介してもらい、留学してすぐに個人レッスンを始めました。週 2 回、元プロのコーチのクオリティーの高い指導を受け

ることで力を付け、最終学期にはすぐに一軍に選抜され、毎日のようにテニスの練習がありました。さらに毎週 1 回のペースで英国屈指のパブリックスクールであるイートン校やチャーターハウス校、ウェストミンスター校などとの対外試合をしたり、学校行事でウィンチェスターの卒業生の方々と試合をしたりと、ウィンチェスターの生徒だからこそできる濃い体験ができました。

ウィンチェスターにきて最初から最後までテニスができた事は本当に幸せな事でしたし、それを通して沢山の出会いや、沢山の悔しさ、嬉しさを経験できたのは一生の宝物です。

今後の派遣留学生へのアドバイス

<留学前>

ウィンチェスターには驚くほど日本人がいません。我々は数少ない日本人のウィンチェスターの生徒です。ウィンチェスターに留学することの趣旨に、多文化理解、世界中から集まった生徒との関わり、新しい価値観や世界観の発見などがあるかと思いますが、その他にも、自分自身が自国文化(日本文化)を背負っていることを忘れないで下さい。ウィンチェスターの生徒は我々を「日本人」として見ていて、日本文化をしっかり理解していることを期待しています。僕からのアドバイスは、日本にいるうちから世界から日本はどのように見られているかを理解しておきましょう、ということです。日本文化、日本国内の政治システムや国際政治上での日本の立場、日本の歴史、建築、ファッション、マナーなど、日本についての様々なことに関心を持ち、「日本人」として日本を語れる人になりましょう。また、世界が注目している日本のアニメや漫画文化も若者には人気なので、少しでも知識を持っておくと話が盛り上がるかも知れません。帰国子女であろうと国内生であろうとハーフの人であろうと、日本文化をしっかり理解しておきましょう。「日本人」として海外に出るとは、そういうことです。

<留学中>

これは先輩からも言われたことですが、ウィンチェスターという素晴らしい環境での一年間はあっという間です。そして、これは一生に一度のまたとないチャンスです。このことを常に心に留めておいて下さい。おそらく誰にとっても経験したことのないような生活になると思いますし、戸惑いや苦しみは付き物だと思います。少し圧倒されてしまったり、思い通りにならなかったりすることもあるかも知れませんが、悩みや葛藤も成長の過程では大切なことです。どのような時間を過ごすことになっても、全てに意味や価値を見出して楽しんで下さい。また、何に対しても勇気を持ってぶつかっていくことが大切です。ウィンチェスターではみんなが自立していて、自分の判断でしっかり行動しています。反対に、何もしなければ何も起こらずに時間だけがどんどん過ぎていきます。様々なチャンスが溢れている恵まれた環境の中で、取るも取らないも自分次第という状況で、自分の成長の可能性をどこまで伸ばせるのかはすべて自分自身にかかっています。人に合わせずに「自分」を持ち、大切だと思うチャンスはしっかり掴みましょう。困った時は友達や僕を含め先輩方に頼ってきてくれて構いませんので、ぜひ有意義な時間にして下さい。応援しています！



以上